基 調 講 演

島根県の人口流出と地域社会の持続可能性

吉川 徹
（大阪大学　人間科学研究科）

シンポジウム　持続可能な地域社会を目指して（2022.01.23）

1

持続可能な地域社会へのカギ

- 人口社会減についての**リテラシー**
- 多様な県民の人生への**リスペクト**

2

島根創生計画

「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指して

「島根創生計画」は、島根県が目指すべき将来の姿を明らかにし、その実現に向けて今後５か年（令和２年度から６年度）の施策運営の総合的・基本的な指針を示す、県行政における最上位の計画です。

若者が増え、次代を担う子どもたちが増えることで活気にあふれ、県民一人ひとりが愛着と誇りを持って幸せに暮らし続けられる島根を目指し、計画の冒頭で「笑顔あふれる　しまね暮らし」宣言を掲げて、県民の皆様と一丸となって島根創生を実現してまいります。

3

島根創生計画の目標（総合戦略の数値目標）

島根県の人口は長らく減少傾向が続いており、現在は約67万人です。人口減少に打ち勝つためには、若い世代に島根に残ってもらい、戻ってもらい、移ってもらうこと、そして島根に生まれてくる子どもの数を増やすことが必要です。

島根を創る人づくりプラン

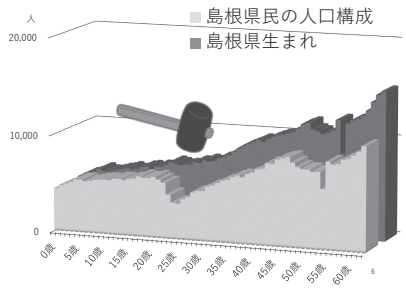
数値目標	現況値	目標値
合計特殊出生率	直近３年平均　1.74（2016年～2018年）	2035年　2.07
人口の社会移動	直近３年平均　▲571人（2016年～2018年）	2030年　±０

4

人口社会減についてのリテラシー

5

最大の課題は、若年層の県外流出による人口社会減！

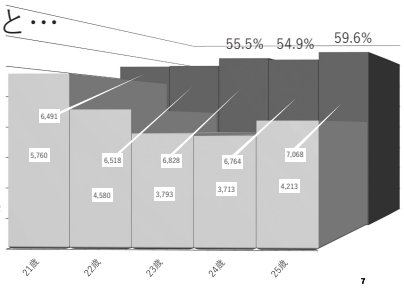


6

拡大すると…

「人口半減」！

- 「きょうだい2人いれば、どちらかは流出…」が実感。県民だれもが気付いている事実。
- 「島根県人口移動調査」ではR2の18～25歳の社会動態は▲1,830人。しかし特例転出届出分が転出数に含まれておらず過少推定？実質は、このグラフのとおり20歳前後の7年の間に同年出生者のほぼ半数、3千人以上が故郷島根から離籍する。



7

他県に類例を見ない膨大な若年流出量

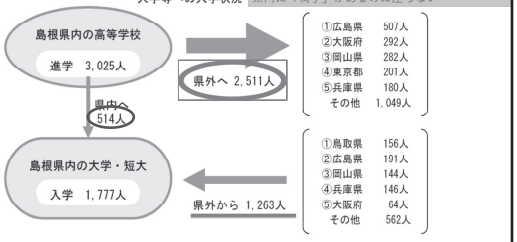
- 同年人口6,500人。うち高卒者6,000人が18歳で進路選択
- 高卒就職者は、近年はほぼ地元就職(1,100人)
- 進学者の県内受け入れ教育機関の質と量の不充足か？
  - 総計2,890枠(島大1,200、県立大480、短大160、高専200、専門学校850)
    - 四大(総合理工、生物資源科学、法文、教育、人間科学、医・看護、総合政策、看護栄養、人間文化)
    - 短大・高専(保育・保健栄養・総合文化、機械、電子、建設、情報)
    - 専門学校(保育、デザイン、医療・福祉・リハビリ・看護・歯科技、情報・IT、ビジネス、自動車)
  - 入試難易度上位、中堅以下の私立大学がない
- 大学進学者、家族、教員…県民意識に根強い県外進学志向

8

県外進学：県内進学　85:15

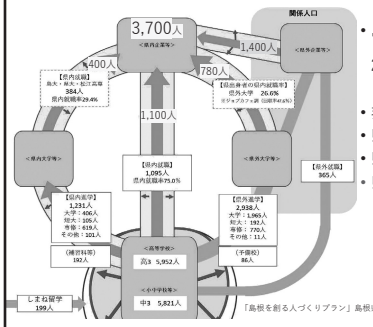
県内に「椅子」があるのに座らない

大学等への入学状況



「若年層の社会移動の状況」島根県政策企画監室(2021)より

9



- 島根固有のローカル・トラック構造(吉川2001)が今も継続
- 非大卒地元就職約30%
- 県内大学等から約11%
- 県外Uターン　約21%
- 県外からの流入約38%
  (短期就労・赴任を含む)

「島根を創る人づくりプラン」島根県政策企画室(2021)より

10

県外進学志向

- 上位層を県外に向かわせる仕組み
  - 理数・探究科学、SSH、進路・進度別クラス編成、補習科
  - 教員側の他県や過去実績との比較意識
    - 進学率で隣県に負けたくない。進学実績が以前より低下してはダメ。
- 過剰な上位人材の育成
  - 県内ホワイトカラー労働力需要を上回る進学者数
- Uターンを引き戻す力学の機能不全　(次頁)

11

「流出&Uターン」が見込めない時代

- 2つの相反する力でかろうじて成立いていたシステム
  - プッシュ要因：子どもの夢を叶える、大きな可能性の追求、親よりも上の地位を目指す　→個(家族)の利益追求
  - プル要因：田畑、墓、家を継ぐ、親世代の面倒を看る、情緒的紐帯　→家族(個)の利害
- 2つの力学がともに力を失いつつある現代日本
  - 低成長社会：継承的地位の維持を望む安定志向の若者の増加、都市の流動化・不安定化
  - 家族の変化：家意識の消滅、福祉の社会化、多様な家族スタイル
- 全国の地方県は、それでも旧システムを維持し競い合っている

12

手塩にかけた定住正規人材を、短期非正規人材と交換して埋め合わせ

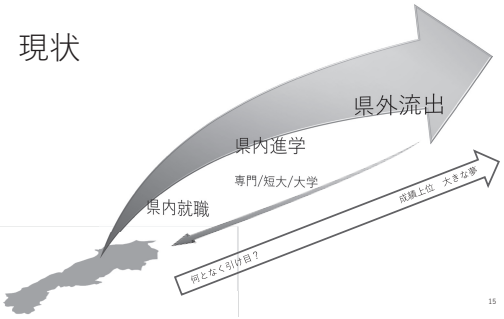
- 島根の初等中等教育は「魅力化」している！
  - 各学年5～6千人を県内各地できめ細かく手作りで18歳まで育成
  - とりわけ良質な人材を選び出し、惜しげもなく一挙県外放出
- 不足分はIターンで「補充」
  - Iターンの主軸は短期・非正規の流動人口
  - 高校しまね留学(3年、住民票付帯せず)、県外出身大学生(4年、住民票付帯せず)、地域おこし協力隊(制度は3年以内、非正規公務員)、外国人生産工程従事者(雇用調整で不安定)、電力雇用(休止中)、企業・自治体の赴任(通常4年まで)
- 県内大学への進学を後押しする政策始動！(後述)
- 進学流出者の「引き剥がし」Uターン誘導は可能か？
  - 島根を出る時の大きな夢が実現すれば、都市部で正規雇用エリートになってしまう
- **「島根を創る」は、県内を流動人口で埋め合わせる計画ではない。**
- **人口自然増を担うのは、流動人口ではなく、固定レギュラー層(居住人口)**

13

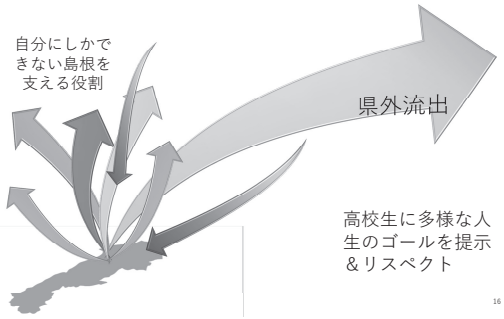
多様な県民の人生へのリスペクト

14

現状



15



16

人材の大量生産・一斉出荷から、多品種少量・地産地消へ

- 地元に残ることは「貧困の連鎖」とは違う！
- いきなり価値の反転は無理。多様化が現実的
  - 「流出ゲーム」を全員が競い、輪切りによって棲み分ける旧来のやり方を過度に称揚しない
- 個人(親子・親密圏)の利害追求に代わり、地域社会(コミュニティ・公共圏)主導で人生をリスペクト
- 多様な役割期待と成功イメージを示し、地域を支える多品種少量の「エッセンシャル・ワーカー」(不可欠人材)の自力創生を！
- 学校魅力化が好循環すれば(2040年頃には)島根創生！

17

政策バランスの検証

①高校の進学流出誘導　　ただちにやめるわけにはいかない
- 進度別クラス編成、理数・探究科、SSH、補習科、関西・東京研修、島根県育英会

②県内在留の誘導　　新しい動きに注目
- へるん入試(島大)、ともに育てる入試(県立大)は、かつてない「逆張り」の試み
- 大学と地元企業の連携により、県内大学からの地元就職誘導も始動
- 県内定住の基幹をなす非大卒地元就職者にも同等以上の目配りを

③Iターン促進　　全国一になる必要はないし、そこに予算をかけすぎる余裕もない
- 数人～数十人規模の好事例を実態サイズ以上に過大評価
- 「限界集落」への対症療法＆都市部への社会貢献事業は、島根の理想像ではない
- 持続的システムが成立したか？　可否を検証する時期
- 言い逃れのために「関係人口」を濫用しないで！

④Uターン促進　　増やしたいのに、はたらきかけが見えない
- UIターン人材が、都市部より島根のほうが自分を高評価してくれると思えるように政策でリスペクトを
- ふるさと島根定住財団は　Uターン促進が本業であってほしい

18

人生は変えず、目配りを変える

- 自分の人生は変えなくてもいい。与えられた場所で、それぞれの唯一の役割を果たすしかない。
- 自分ではない人生を歩む人が、代わることのできない役割を担って島根を支えている。その人生を県をあげて育成＆リスペクト＆サポート！
- 全国区で評価される人材になる(なった）県人を、わざわざ島根県が持ち上げなくてもいい。県は、地元基準でみた不可欠人材を高く評価する役回り

19

持続可能な地域社会への**カギ**

- 人口社会減についての**リテラシー**
  - 若年層の動向は、島根県の未来にとって適正か？県民だれもが正しく知り、常に考える
- 多様な県民の人生への**リスペクト**
  - 自分とは違う道を歩んだ人たちが、島根県を支えていることを尊重する
- 見える化するのは**政策のバランス**

20